ISSN 0913-3321

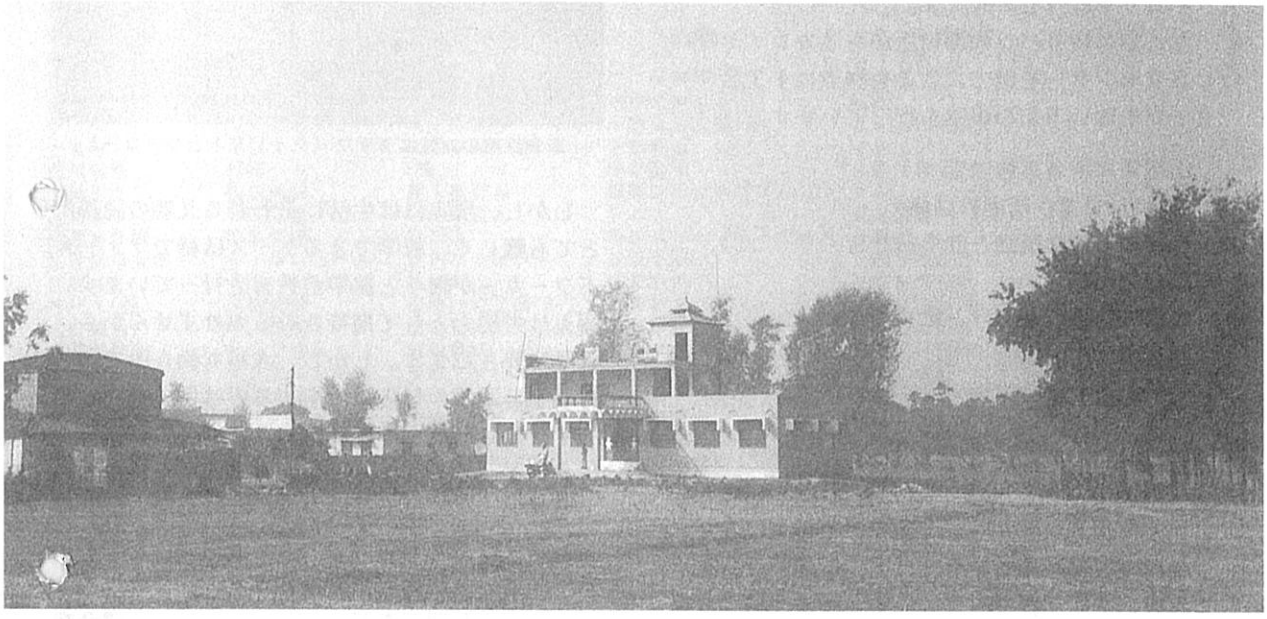
LIGHT OF LOVE

Overseas Project for the Blind – Plans and Reports

No.7 1992.8

愛の光通信

東京ヘレン・ケラー協会 海外盲人援護事業事務局



Bara CBR Center
Kalaiya Town, Bara District, Narayani Zone, Nepal

驟雨が音を立てて大地を乱打した後
砂塵でぼんやり霞んでいた風景が一変した
空気は透明で、空は見事に青い
樹木の緑は陽を浴びて黄金に輝く

バラＣＢＲセンターは、日本からの資金と
地元の奉仕の汗で建設した視覚障害者の殿堂
日本とネパールをつなぐ虹

動き出したＣＢＲセンター

Open of the Bara CBR Center

私たちは1989年からＮＡＷＢと共同で、バラ郡において視覚障害者のための更生援護事業を行っています。

日本などの先進国では、障害者の更生援護は障害者センターなどに入所して行います。しかし、途上国では、それは財政的に不可能です。そこで考え出されたのが、地域コミュニティをベースにリハビリを行うＣＢＲです。

私たちは現在バラの郡役所があるカレイヤ町にＣＢＲセンターを建て、ここを拠点に１７名のスタッフを雇い下記の事業を行っています。

①視覚障害者実態調査
②歩行・日常生活動作訓練
③盲児の就学奨励と就学前教育
④職業訓練
⑤自活資金貸し付けと職業指導
⑥失明防止事業
⑦眼科診療所の運営

統合寄宿学校

フィールドワーカーが調査のため村々に入り、学齢期の盲児を見つけたら、学校に通わせるように両親、特に父親を説得します。うまくいった場合は、最寄りの小学校に行き教師を説得し、カトマンズの大学に派遣します。３～６カ月間の特殊教育課程を受けさせ、統合教育にあたるリソースティチャーを養成するのです。こうして、盲児は就学の機会を得ることができます。

ＣＢＲスタッフを激励する担当理事

新規採用の女性スタッフ（タイピストとワーカー）

しかし、現実には生活に追われる父親の説得がとても難しく、就学できるケースは稀でフィールドワーカーが細々と就学前教育を行っています。盲児は労働力として期待されておりませんから、入学は許されます。しかし、大事な働き手である母親が、通学の付き添いをするのは困るというのです。貧しい彼らの生活を知る者は、こうなると引き下がざるを得ません。また、就学できたとしても村の小学校は教師がひとりだけの所も多く、その場合はリソースティチャーの養成は無理で、耳学問に近い授業風景となります。

このような問題を解決し、盲児に就学の機会を与えるため、1993年1月の新学期を目指して、我々は統合寄宿学校の開発を計画したのです。

We built a CBR Center in Kalaiya where the Government Office of Bara district is located. We have 17 staff there at the base and are operating as follows:

1) Conduct home survey on Visually Handicapped Persons.
2) Give practice of mobility and daily living skills.
3) Encourage blind children to go to school and give pre-education to them.
4) Give vocational training.
5) Promote fund loaning for self-support living and give vocational guidance.
6) Participate in activities prevent visual disability.
7) Operate an Eye Clinic.

未来を担う若者たち

点字ジャーナル編集長 高橋 秀治

４月20日夕暮れどき、亜熱帯にあるバラのＣＢＲセンターは薄暗かった。ここで初めて、視覚障害者のリハビリに取り組む17人の現地スタッフと会った。彼らはＣＢＲ事業の責任者である井口理事の話をひと言も聞きもらすまいと、じっと耳を傾け、「この事業を、もう３年延長したい」と聞いた時、いっせいに拍手した。遠い日本の指導者とネパールの若者たちの心が一つに結ばれた感動的な一瞬であった。

東京の半分ほどの広い地域から視覚障害者を探し出し、その教育、職業、自立のための生活訓練の手立てをはかる遠大なプランを、彼らは担っている。スタートしてまだ３年。実際は、基礎的な調査が終わった段階なので、この先どうなるのかと、不安がいっぱいだった筈だ。

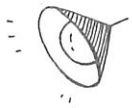
このあと、このセンターを後援する土地の長老をまじえ、暗くなった玄関先で話が続けられた。長老たちは、大地主、大学の教授、高校の校長などで、ネパールの国づくりに心を痛める指導者である。

長老たちは、「もしもヘレン・ケラー協会がその気になってくれれば」と前提をつけた上で「このセンターに付属する病院を建てるため、土地を提供してもよい」、「遠い町にある病院に通うのは大変だから、センターのそばに眼科患者用の宿泊施設もいる」、「通学が困難な盲生徒のために寮を作ることも考えられる」と、景気のいい話をポンポン打ち上げる。

いささかたじろぎながらヘレン・ケラー側は、「仮にお金や土地があっても、具体的な図面がないのは困るので、お互いに連絡をとりあって進めて行きたい」と応じる。現地スタッフ責任者のチョビひげをはやしたゴータムさんが、「リハビリの対象者はたくさんいるが、それをカバーできる人数が足りない」と気迫をこめて追い打ちをかける。

やっと話し合いが終わったとき、それまで停電だったこの建物に電気がついた。

NAMASUTE ピカッ



□□□ 海外援護事業記録 □□□

（ 1991 / 6 － 1992 / 5 ）

91年６月 ＊点字出版所地鎮祭・技術指導に３名派遣
失明防止事業に１名派遣 （ 6/19 － 29 ）
＊点字出版所事業に国際ボランティア貯金の配分金が決定 （ 6/21 ）
７月 ＊「愛の光通信 No.６ 」発行
＊失明防止事業に外務省補助金決定 （ 7/22 ）
10月 ＊眼科機材をネパールへ発送 （ 10/4 ）
＊アジア障害者問題研究会で報告 （ 10/5 ）
＊ＷＢＵ東ア・太平洋地域会議 （ 10/7 － 11 ）
＊郵政省「感謝の集い」 （ 10/15 ）
11月 ＊ベトナム教育省から見学・懇談 （ 11/7 ）
＊点字資材・テープレコーダーを国際平和輸送サービスの援助でNAWB宛発送 （ 11/29 ）
92年１月 ＊技術指導１名、事業管理１名派遣（1/12-26）
２月 ＊点字出版所、国際ボランティア貯金調査研究委員会より進捗状況の査察を受ける（ 2/18 ）
４月 ＊技術指導・事業管理に４名派遣 （4/16 － 26）
＊井口淳担当理事黄綬褒章受賞 （ 4/29 ）
５月 ＊ネパール写真展開催 （ 5/11-23 ）

Main projects in 1992-1993

1) In order to expand the projects, employ a local person as a representative in Nepal and open our office in Kathmandu.
2) Make and distribute braille textbooks to high schools.
3) Increase the loan for the self-support living fund and develop vocations like breeding of livestock for the blind.
4) For the project of prevention of visual disability, open a work shop together with distributing Vitamin A tablets continuously to follow up the project.
5) Post full time oculist assistant to stabilize the eye clinic operation.
6) Develop an integrated boarding school for visually handicapped children and start from the new school year.

野菜作りと竹細工で自立する盲青年

バラ地区でのＣＢＲを視察して

海外援護担当理事　井口　淳

ネパール王国バラ地区は、国境をインドと接している地域で、私がバラ地区のほぼ中心ともいえるカレーヤを訪ねた４月半ば過ぎでも気温は38℃を越えていた。しかし、案外空気が乾燥していたせいか、それほど暑さを感じなかった。それでも、首都カトマンズに比べると夜眠るときの気温には格段の差があった。これはネパールがほとんど山岳地帯であるために場所により、高度の差で気温の変化が起こるのである。たとえば、カトマンズを朝の６時にジープで出発した場合、バラ地区に到着するのは、７、８時間後の午後１時か２時頃になるのであるが、軽飛行機で行くと、約20分であるのをみても、いかに自動車では山岳地帯を辿らねばならないかがわかるであろう。つまり、カトマンズとバラ地区のカレーヤは直線距離では約70kmであり、車だと約200kmとなるそうだ。

このカレーヤには２年前の1990年に、日本政府のＮＧＯ補助金を得て着工したＣＢＲセンターがある。これは同地の大地主が土地を無料で提供してくれたことと、建物の建設工事に地元人の強い要望が実を結んだものといえる。つまり、ここに眼科医療器具を設備して、週１回かまたは十日に１回程度にでも医師に来てもらい治療してもらいたいという願望からできたものである。その地区には眼科医だけでなく、専門医と名の付くものは一つもなかったという。聞くところによると、今では診療の日となると朝から百数十人の人々が押しかけてきているそうである。

ＣＢＲセンターへポートレートを寄贈する

この地でのＣＢＲを始めたのは、３年前の1989年であった。17人のフィールドワーカーが山裾を丹念に回って、土間に放任された盲児を捜したのである。そうした盲児に近づき生活訓練をほどこして、学校に通学できるようにするのである。これが農村リハビリテーション、ＣＢＲである。

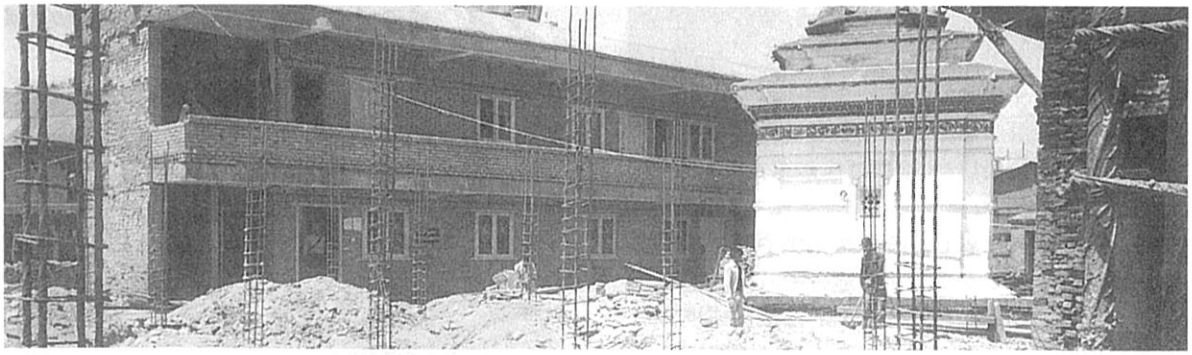
このほかにもバラ地区で行っていることは、盲児のみに限っていない。大人の盲人たちにも、家畜である豚や水牛の世話がある。特殊なものに、竹細工や日用品の売店経営もあった。これらにある程度の資金を貸し付けることもＣＢＲの一環として行っている。これにより、今まで盲人が全く邪魔者扱いにされていたのが、資金源として重宝がられることにもなったようだ。

こうした現象は、全部必ずしも良いとばかりはいえないが、盲人に対する態度と見方を徐々に変えて行くのも良いかも知れない。宗教上とはいえ盲人は前世での悪行によるものとして、汚らわしい存在と考えられていた者が、資金源としてみなおされる段階をたどって、将来はまともに人間扱いされるようになるのも良いのではないかと思う。ネパールでの盲教育とは盲児に対して学校教育を実行するばかりでなく、盲人家庭に事業資金の貸し出しなどで、一般社会に対しても盲人への認識を変えさせることも必要だと思う。

このバラ地区の視察後、ネパールにおけるＣＢＲをまだまだ続けなければならないことを痛感し約束させられたのである。

点字出版所の建設

Construction of the Braille Printing House

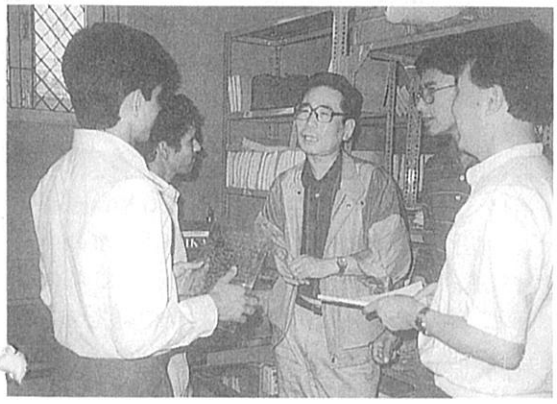


これまで廃寺に寄寓して点字教科書を発行してきたネパール盲人福祉協会(NAWB)が、1992年1月、郵政省国際ボランティア貯金の配分金を受けて建設した、ピカピカの点字出版所に移転しました。

これまで潰れかけたお寺で点字教科書を作ってきたスタッフは、長年の夢がかない張り切っています。また、日本から贈った２組の点字製版機と印刷機もこれまでは、ネパール特有の砂塵に悩まされましたが、今後は日本と同じ環境で、その能力を充分に発揮することができます。

当協会が援助する前のネパールでは、一部づつリソース・ティチャーが教科書を点字に写していたため、とても全員には行き渡りませんでした。しかし、現在はＮＡＷＢとの共同事業で、すべての小・中学校に通う盲児全員に配布しています。

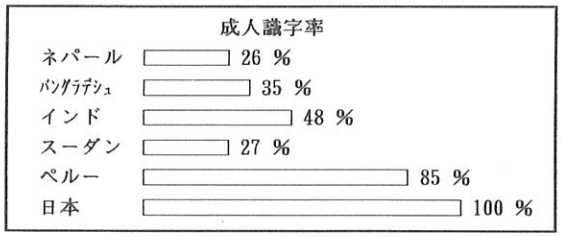
この事業をさらに充実させるため、当協会では国際ボランティア貯金の配分金を受けて、必要な点字資材をすでに送り、現地で技術指導も行っています。これにより、今年度中には高校生にも点字教科書を配布する計画です。



当協会点字出版局職員による技術指導

点字教科書と図版指導

小・中学校の主な教科と高校のネパール語と英語の教科書はすでに配布されており、点字教科書の製作は、東京で思った以上に順調でした。しかし、幾何学や地理の授業に欠くことのできない図版が、ほとんど作られていないので、有り合わせの道具で、簡単な作図を指導しました。本格的な図版は、専用の作図機と付属設備が必要で、熟練も要します。日本への研修も含めて、今後検討しなければならない課題です。



The NAWB began issuing braille textbooks from its printing house in part of a dilapidated temple. Now, a two storied building has been constructed using Voluntary Deposit for International Aid subsidies provided by the Ministry of Posts and Telecommunications. All staff who had made braille textbooks in the dilapidated temple before are in high spirits as a long-cherished wish has been realized. Sand and dust which are common to Nepal had caused frustration in the operation of two units of braille printing systems until then. But now, the maintenance of the machines has been simplified and they are been running at full power.

ネパールの天国と地獄

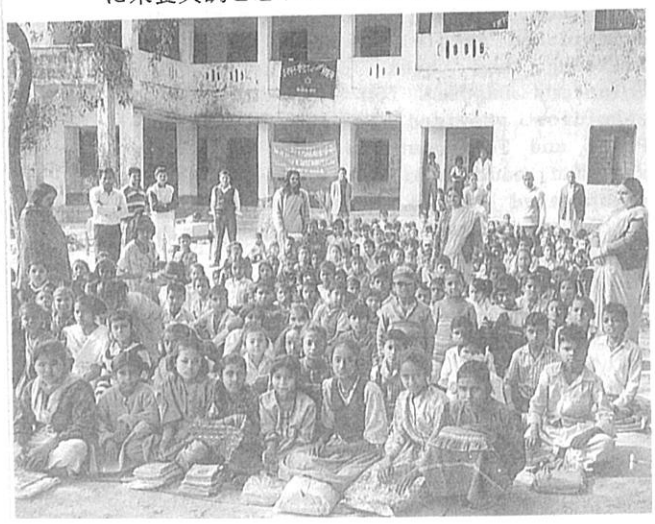
透き通った青空と、白銀の冠をいただき鎮座する美しい山々、神々の玉座といわれるヒマラヤからの透明な雪解け水は、清浄な山ふところに繚乱たる花を咲かせます。

しかし、これがネパールのすべてではありません。インド国境沿いに、帯状に広がるタライ平野は、これと対極的な風景を我々に見せてくれます。この地は亜熱帯に属し、その昔は虎やコブラが住み、疫病の流行るジャングル地帯でした。近年、人口が爆発的に増えたため、今では国民の半分がこの平野で暮らしています。しかし、人が住むには余りに苛酷な環境です。

我々が、バラにフィールド・ワークに行く時は、必ずＮＡＷＢの付き添いと一緒です。しかし、この仕事を、彼らはあまり好まないようです。バラから眺めれば、カトマンズは天国のように見えますから、好んで出かける所では無いのです。

タライに入ると風景が一変し、一面インドの貧しい農村風景です。実際この地ではネパール語は話されず、ヒンズー語が幅をきかせています。ジリジリと太陽が照りつけ、土煙がもうもうと舞うなか、ＣＢＲセンターがあるカレーヤ町に入ると道路の至るところには悪臭を放つ汚水の水たまりがあります。これを散らして、我々を乗せたジープが走ります。村々に入ると、道は途絶えがちになり、車は路肩に乗り上げ、ひどく傾きながら牛のようにゆっくり進みます。

どの村でもまず、裸足で目をきらきら輝かせた子供達の歓迎に出会います。みんなひどく痩せており、中にはおなかだけポンと膨らんで、明らかに栄養失調と思われる子供もいます。この子らの



小学校でのビタミンＡ配布

失明防止事業

Preventing Loss

幾人かは、確実に死亡もしくは失明することを、統計は冷酷に予測しています。

我々は経済大国の住人であり、極度の貧困があたりまえで、幼い子供が手当されることなく死んで行く有り様を、リアルに実感できないところがあります。しかし、高等教育を受けたネパール人であるＮＡＷＢの職員にとっては、人ごとでは無いのです。これが、彼らがバラに行くのを好まない、潜在的な理由なのかも知れません。

ビタミンＡとワークショップ

戦前、日本での失明原因のほとんどは麻疹（はしか）によるものでした。栄養状態の良くない当時、幼児に高熱が続くと、肝臓に蓄えられたビタミンＡが消耗しついに失明にいたるのです。栄養状態が改善された戦後は、このような失明はまったく陰を潜めましたが、二人にひとりが栄養不良の状態で、年間一万六千人の子供が麻疹で死亡するネパールでは、現在も主要な失明原因になっています。また、ビタミンＡが不足すると様々な感染症に罹患しやすくなり、これが原因で失明や死亡にいたるケースも多いのです。

当協会は、平成３年度外務省ＮＧＯ補助金を受け、失明防止に有効なビタミンＡをバラ郡の小・中学校を中心に配布しました。そして、これにあわせてフィールド・ワーカーが村々の軒先を借りて辻説法ならぬ、「栄養・衛生講習会」を半年間連日９カ所で開きました。ネパールの成人の識字

とビタミンA

People's Eyesight

ネパールにおける子供の主な死亡原因

死亡原因	年間死亡者数
下痢性感染症	45,000
肺炎など急性呼吸器疾患	40,000
新生児破傷風	14,000
麻疹(はしか)	16,000
その他ジフテリア、百日咳、ポリオ、結核など予防接種で防ぐことのできる感染症	10,000

率は26(%)と低く、特に農村部では栄養や衛生について正しい知識をもった人は極めてわずかです。こどもの死亡原因の1位が下痢性感染症であることからも、衛生状態の劣悪さがわかります。

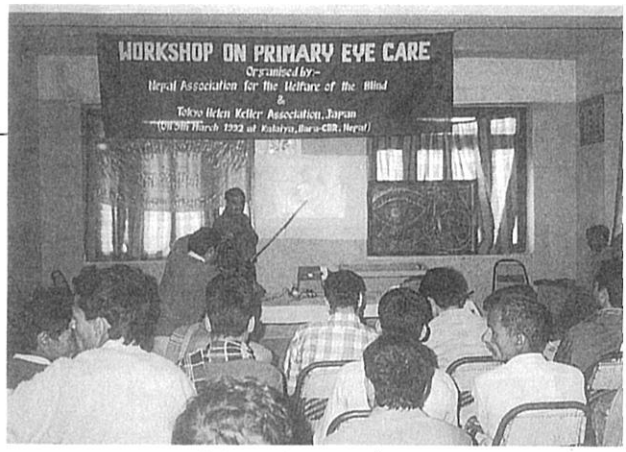
私たちは、バラ郡役所とトリブバン大学の協力を得て、教師を集めて失明防止のワークショップも開きました。ネパールにおける失明防止は、子供達の生命を守ることと直接つながり、そのためには教師の協力が是非とも必要だからです。

平成4年度の重点事業

①カトマンズ事務所の開設

事業を拡充するため、現地で駐在員を採用し、年末にも我々の定宿であるペンション・サクラ内に事務所を開設する。駐在員は、この9月から三カ月間、東京で研修を受ける計画である。

眼科診療所で治療するウパディア博士



失明防止ワークショップ

②点字教科書配布事業

高校用点字教科書を作成し、配布する。

③職業開発

自活資金貸付金を増やし、視覚障害者が家畜の飼育などで生活できるよう職業を開発する。

④失明防止事業

引き続きビタミンAを配布すると共に、ワークショップを開き、フォローアップをはかる。

⑤眼科診療所

常勤の職員を置き、診療所の運営を定着する。

⑥統合教育

寄宿制の統合教育校を開発し、1993年1月の新学期から、視覚障害児を就学させる。

One of the first causes for blindness was measles in Japan before the end of World War Ⅱ. When one suffers from measles, Vitamin A consumption usually saves one from blindness. At present, 16,000 children die of measles in Nepal every year. Even if they can avoid a death from measles, in many cases they become blind. A Subsidy system was established by the Ministry of Foreign Affairs for an NGO project and its funds have been used to distribute Vitamin A tablets which are effective in preventing blindness, to primary and secondary schools in Bara district. In connection with this activity, field workers have held a seminars of dietetics and hygiene in front of houses at 9 places everyday for the past half year. Also we have gathered teachers and opened a work shop on prevention of blindness with the cooperation of the government office of Bara district and Tribuvan University. Prevention of blindness in Nepal is directly connected with the defence of the life of children and the cooperation of teachers is by all means necessary .

ネパール写真展

５月11～23日の２週間「海外援護事務局」は、新宿北郵便局にてネパールでの援助活動を紹介する写真展を開催しました。

当協会では、1987年からネパールで点字教科書を作り、配布する事業を行っています。この事業が認められ、始まったばかりの郵政省国際ボランティア貯金の配分金を昨年度から受けています。

新宿北郵便局は、当協会に隣接しておりこの配分金の申請窓口になっています。普段「御中元」や「御歳暮」などの展示を行っているショーケースを借りて行なったこの写真展は、われわれの点字教科書事業と農村僻地でおこなっているＣＢＲ事業を紹介したものです。

貯金課の小林潔課長は、「今回の写真展は大変好評でした。郵便局を通じて国際貢献できる国際ボランティア貯金への反響は予想以上に大きく、今後もこのような機会を利用して、さらにＰＲに努めます」と語っていました。

ペンション・サクラ

我々のカトマンズでの宿舎は、アジア眼科医療協力会(AOCA)やネパール教育協力会など、日本の他のＮＧＯも定宿にしているサクラ(TEL 416499, P.O.BOX2554, Kathmandu)というペンションです。

今は増改築して、きれいになりましたが、以前は10人も泊まれば満室の小さな宿屋でした。しかし、掃除は行き届いており、特にトイレは以前から清潔でした。主人のバイダヤさんは、神戸でホテルの研修を受けたことがあり、日本人の性癖を良く心得ているのです。あまりきれい好きとは言えない我々も、身近に肝炎や赤痢にかかった友人がおり、病名の良く分からない下痢性感染症にかかると、とても注意深くなります。

ネパールは、牛がのんびりと我がもの顔に歩くヒンズーの国です。根底にカースト制度があるため、我々には、社会構造がとても不合理に見えます。従って、ちょっと電話で済むような用事も、驚くほど時間がかかります。しかし、不思議なことに、バイダヤさんに頼めば、すぐ事もなげに手配してくれます。自分でクリーニング店に頼んだらシャツが黄色くなって返ってきましたが、彼に頼んだら、きれいに白くなっていました。わざわざ遠くのクリーニング店まで運んでくれたのです。部屋代はシングル、シャワー共同で750円程度。仕事の段取りと健康を考えたら、ここ以外に泊まれません。

バイダヤ夫妻

プラスチック原板カトマンズへ

ネパールの点字教科書製作に使用するプラスチック原板１万枚が1992年１月にカトマンズに到着し、在庫量を心配していたネパール盲人福祉協会スタッフを安心させました。この原板は国際ボランティア貯金の配分金によって購入し、笹川平和財団 ── 国際平和輸送サービスの助成によってカトマンズに輸送されました。同時に全国各地から寄せられたテープレコーダーや白杖、点字器なども同じ船で輸送されました。

ＮＡＷＢに到着したプラスチック原板

1991年度事業報告

1．　視覚障害者農村リハビリテーション(CBR)事業

本年度は、外務省ＮＧＯ補助金を得て建設した「ＣＢＲセンター」の落成式を1991年4月に行い、ここを拠点に、歩行訓練、日常生活訓練、職業訓練を本格的に行った。さらに訓練の修了者には、家畜の飼育や野菜栽培のための資金を貸し付け自立を促した。また、現地スタッフを増員して開発地域の拡大をはかり、視覚障害者の個別調査と訓練を行った。調査の過程で、未就学盲児の問題がクローズアップされたため、就学促進のための統合教育の実施プログラムも準備した。

本年度は特に外務省ＮＧＯ補助金を受けて、失明防止のためのビタミンＡ剤を学校を中心にして組織的に配布すると共に、トリブバン大学の協力を得て、教員を対象にした失明防止講習会を開いた。

2．ネパール点字出版事業

カトマンズのＮＡＷＢ付属点字出版所にて、引き続きネパール全土の盲児のために小学校用の点字教科書を製作し配布した。

本年度は、点字出版所開設時に日本から運んだ点字製版用原版の在庫が少なくなったため、原版の新たな供給が急務となった。しかし、従来の亜鉛板は重量が重くコストが高くつくため、今後本事業が急速に進展すると極めて重い負担になることが懸念された。そこで、点字出版局の協力を得て代替原版の研究を行い、プラスチック原版の採用が適当との結論が出た。そこで、数次にわたって技術者を現地に派遣し、プラスチック原版用に製版機と印刷機の調整を行い、あわせて技術指導を行った。

その上で、プラスチック原版は、郵政省の国際ボランティア貯金の配分金によって調達し、海事国際協力センターの無償輸送サービスにより現地に送った。

3．ネパール盲人福祉協会（ＮＡＷＢ）会館建設事業

点字出版所を含む従来のＮＡＷＢ本部は、廃寺を利用していたため、本部会館の新築はＮＡＷＢの悲願であり、最も重要な懸案事項であった。

そこで郵政省国際ボランティア貯金の配分金を受け、1991年6月に建設予定地にて地鎮祭を行い、点字出版所の新築工事を着工した。

4．広報・募金活動

従来の「愛の光通信」をさらに読みやすく、親しみの持てる広報誌とするため編集方針を改め、紙面を刷新した。特に当協会の海外援護事業に対して、諸外国ＮＧＯも注目しており、また国際的な交流も盛んになって来たので、本文中に英文の要約を交え、好評を博している。

5．その他の活動

1991年4月ＮＨＫ教育テレビ「明日の福祉」に担当者が出演し、ネパールにおける当協会の活動を紹介した。

1991年10月8日、第２回世界盲人連合(ＷＢＵ）東アジア太平洋地域会議の分科会で、担当理事が「海外援護への私の考え方」と題し、講演をおこなった。

1991年10月15日、郵政省主催の「お客様感謝のつどい」に担当理事が招かれ、ネパールでの活動を紹介した。

ＷＢＵ東アジア会議での提言

1991年10月7～11日の５日間、第２回世界盲人連合（ＷＢＵ）東アジア太平洋地域会議が、「自立と協力」をテーマに東京にて開催されました。

この会議の「開発途上国援助」分科会に当協会井口理事が提言者として出席し「海外援護に対する私の考え方」と題し、ネパールの視覚障害者援護の活動に触れながら、途上国との相互理解を踏まえて、人材育成、現地の自主性の尊重などについて提言を行いました。

Secretariat of overseas project for the blind of our association held a photo exhibition of Nepal at Shinjuku-kita post office for two weeks from 11 May through 23 May 1992.

Our residence in Kathmandu is Pension Sakura, P.O.Box 2554, Kathmandu. This pension is clean and serves delicious Nepalese cuisine and the rent is reasonable.

10,000 units of plastic plates for braille plate making, recorders, white canes, braille slates arrived in Kathmandu in January 1992.

郵政省「お客様感謝のつどい」

1991年10月15日、東村山市立中央公民館において「郵便貯金お客様感謝のつどい」が郵政省東京多摩北連絡会の主催で開かれ、冒頭の式典で当協会井口理事が、国際ボランティア貯金の配分金を受けて、ネパールのカトマンズに点字出版所を建設中である旨報告し、感謝の意を表しました。お集まりのおじいちゃん、おばあちゃんには、”ネパール”が新鮮に響いたらしく、驚きの面持ちで報告に聞き入っていました。

On the 15 Octorber, 1991 " A gratitude gathering for post office saving customers" was held by the Ministry of Posts and Telecommunications at the central public hall of Higashi-murayama city and Mr. Iguchi, the director of our association reported on the project operation in Nepal

During 7 - 11 October, 1991 the 2nd General Assembly of the WBU East Asia Pacific Region was held and Mr. Iguchi, the director reported on the project operation in the sectional meeting of the assembly.

1991年度会計報告

自　1991年4月 1日
至　1992年3月31日

海外事業

収入の部			支出の部		
科　目	金　額	摘　要	科　目	金　額	摘　要
助成金収入	7,788,000	国際ボランティア貯金	事務費	1,892,164	
協賛金収入	1,754,800	毎日写真ニュース	賃　金	560,000	
募金収入	1,619,667	青木清ほか	交通費	4,330	
販売収入	376,900	テレホンカード	印刷製本費	352,521	
雑収入	156,237		役務費	233,841	
			借料損料	266,232	
			雑　費	475,240	
			事業費	8,063,021	
			海外援護費	6,967,352	
			海外出張費	1,095,669	
前年度より繰越	7,262,293		次年度へ繰越	9,002,712	
合　計	18,957,897		合　計	18,957,897	

ネパール農村プロジェクト特別会計

収入の部			支出の部		
科　目	金　額	摘　要	科　目	金　額	摘　要
助成金収入	2,735,000	ODA			
募金収入	571,750	岡野マスミほか	海外援護費	4,849,193	
雑収入	1,944		海外出張費	993,996	
前年度より繰越	2,534,495				
合　計	5,843,189		合　計	5,843,189	

寄付者ご芳名（五十音順・敬称略）

自　1991年4月 1日
至　1992年3月31日

青木　貞子
青木　正子
秋元　武雄
阿佐　博
飯田橋百貨店宮本町店
飯塚　羚児
イクバル・ハニフ
イクバル・サヒラ
井口　淳
石井　嘉茂
石川　尚代
石川　昌宏
石田　勝次
石光　貞子
磯貝　英夫
市角　誠
市田　克彦
市原　政春
出田　敦子
出光　永
伊藤　啓子
稲吉　照市
井上　訓夫
今井　弘一
今川　勇
井村恵津子
入江　一恵
伊礼　孝男
内山　武志
エアメールサービス
大芦　明
大内　三良
大岡　信
大河原正子
大崎　早苗
太田　義秋
大谷　宗太
大西　章夫
大本　貞堅
岡野マスミ
尾形　雅子
尾形　仂
小川　喜道
小河　静
小川　元
尾関　育三
小田　淳
小野　映
折戸　正明
賀川　友吉
加来　典子
片桐　武昭
加藤　晃
金杉　克之
金森　なお
金田　一郎
鐘紡若里自由学園
神谷　国男
神谷　辰夫
萱沼　茂寿
川崎　力
川島　玉子
川中修一法律事務所
岐阜盲学校高等部生徒会
汲田　冬峰
倉田　由次
鞍谷　清孝
弘　誓　社
小泉　周二
河野　憲利
神山　貞子
肥塚　美和子
肥塚　隆
小島　猛
小平　嘉清
小長谷正夫
小堀　光弘
小森　愛子
近藤　文郷
三枝　礼子
酒井　久江
坂本　明弘
佐古井貞行
佐藤　久夫
佐藤　利村
品田　雄吉
芝田　熊雄
渋谷　有教
昭和橋キリスト教会
白井　雅人
菅原　温子
菅原ふく子
鈴木又五郎
関根　嘉寿
曽野　綾子
高垣商店
高橋　昇造
高橋　清一
高橋　輝雄
忠津　信子
田近　圭子
多出村伸一
田所　登
田中　雅治
田中　茂
田中　亮治
田伏淳一郎
玉谷都千恵
墳下　淳一
辻　三郎
辻井　達一
寺内　大吉
寺島アキ子
照井　博
鳥羽田　節
富鹿眞砂子
外山　雄三
鳥山　由子
道家　寧
直居　鉄
中川みどり
中瀬栄之助
中村　安信
中村　歌子
中村　信子
中村　ユリ
中山　弘子
新阜　義弘
西本　行男
野口　三男
野田　寛
橋本　三郎
橋本　時代
端山　智弘
長谷川一郎
八田　公雄
埴谷　雄高
林　鳳紘声
林　大
原田　美男
春尾千代子
馬場のぼる
久本成子・喜実子
檜山　寿子
広田　末子
樋渡　敏也
福原ササノ
藤井　誠司
(株)プラジオ
前島英三郎事務所
牧　茂美
牧田　紀子
政本ゆたか
増田　次郎
松尾　宏之
松下　信雄
松村　太郎
丸山雄一郎
三浦　綾子
水野まち子
水間　保実
南　博
御本小一郎
三宅正太郎
宮崎　勇
宮原　俊恵
宮原満洲男
武蔵野女子学院生徒会
無着　成恭
村上　元三
村山　知子
森　典子
森林　成生
森本　哲郎
緒藤フサ子
安井　信夫
藪内　清
山内　潤子
山岡　聖明
山口　節子
山口　和子
山根　昭市
山本　昇
山本美穂子
湯川れい子
吉田　重子
吉田　甸
米田　昌徳
ラインゴールド
若狭　裕二
若林　弘子
渡辺　尚道
渡辺　直明

協賛者ご芳名（五十音順・敬称略）

自 1991年4月 1日
至 1992年3月31日

会津中央病院
青森明の星短大
赤城村
ＡＫＩ音楽事務所
浅草信用金庫
アサヒビール
味の素(川崎)
アスモ
我孫子市
有賀法律事務所
粟津農協
井坂 啓
石津建材
伊豆箱根鉄道
市川瓦斯
伊東ｶﾝﾄﾘｰｸﾗﾌﾞ
伊藤製作所
伊藤忠燃料
伊藤パークゴルフ
伊奈町
一宮町
茨城食糧
茨城ヤナセ
宇路建設(株)
宇都宮学園
江差信用金庫
江尻 隆
オーク(株)
大井競馬
大井製作所
大川設計
大久保歯車工業
王子製紙
大瀧運輸
(株)大林組
(株)オカハシ
忍野社協
小田原湯本Ｃ.Ｃ.
ｵﾘｴﾝﾀﾙ写真商事
海外経済協力基金
花王
春日部共学園
神奈川銀行
カルビー
カルピス
河津町
河西工業
木更津中央高校
北菱電興
紀文食品
九州ガス
教育同人社
協同乳業
暁星学園
岐阜経済大学
桐生第一高校
金城短期大学
九段会館
栗田製作所
京急開発
月桂冠
コーセー
小岩井乳業
甲西町
光文書院
光葉企業
御前山村役場
コトブキ
ｺﾔﾏﾄﾞﾗｲﾋﾞﾝｸﾞｽｸｰﾙ
金刀比羅宮
西相信用金庫
埼玉共栄学園
サウンドクラフト
相模ハム
桜田病院
笹島工業
佐島電機
サッポロビール
サニーｶﾝﾄﾘｰｸﾗﾌﾞ
三協精機
参天製薬
サンド薬品
サンミックス
塩釜ガス
志賀町
静岡英和女学院
資生堂
シチズン電子
下総町
社会調査研究所
秀明学園
主婦の友 鶴岡
昭和電機工業
白菊酒造(株)
白沢電気
(株)信栄製作所
信栄製紙
神慈秀明会
新日本食品
順心女子学園
スズキ新潟販売
スピードファム
住友スリーエム
駿台学園高校
正則学園高校
聖徳学園
学校法人聖和学院
セキショウ
セレマ
セントラルスポーツ
全理連
草月会
外山工業(株)
空知信用金庫
ソントン食品工業
第一企画
(株)第一スーパー
第一電子工業(株)
大和証券
大成証券
ダイセル化学
太知商事
太平洋銀行
太平洋証券
大鵬薬品工業
(株)タイヨー
高千穂交易
(株)武富士
立川市
立川ブラインド
田富町
田中ｻｯｼｭ工業(株)
田中脳神経外科病院
田中病院
多摩ヤクルト
中部建設(株)
中央ビルト工業
中外製薬
中京大学
中真堂
鶴川高等学校
鶴見屋商店
Ｔ＆Ｋ ＴＯＫＡ
Ｔ．Ｏ．Ｃ．
ＤＣカード(株)
(株)テイチク
寺内 大吉
電気化学工業
電源開発
電事連
トウエイ電資
ＴＯＫＡＩ
東海
(株)東海堂
東京専売病院
東京測範
東京田辺
東京ビジネススクール
同潤会病院
東武建設
東邦電線工業
東北高校
東北電力
東洋エンジニアリング
東洋水産
東和証券
常磐興産
豊島園
都11市競輪
社会福祉法人トット基金
凸版印刷
トナミ運輸
富里町
巴川製紙所
内藤電誠工業
中野建設工業
中埜酢店
中谷総業
那須ゴルフクラブ
ナムコ
新潟ダイハツモータース
日栄学園
日栄証券
日揮情報システム
日興証券
日産サニー千葉
ニッセー
ニチレイ
日本学園
日本証券金融
日本電気機器
日本電気無線電子
日本舗道
日本ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｱｶﾃﾞﾐｰ
日本ロシュ
野津漬物
野村証券
野村法律事務所
パイオニア
白山観光
波崎町社協
服部セイコー
花巻市
はらだ歯科医院
日高カントリークラブ
ひめゆり総業
平岡ボディー
平塚競輪
ファイザー製薬
ファミリーマート
深沢 信夫
藤井脳神経外科
藤沢さいか屋
富士製作所
フジゼロックス
藤田鉄工所
富士通ゼネラル
文化シャッター
文化女子大学
ボーソー油脂
豊栄社協
ホリ企画
ﾎﾝﾍﾞﾙﾀｲｾｲｼﾞﾝ
マサカネ図案舎
松下技研
松戸市
松菱
丸う田代商店
マルシンフーズ
丸美屋食品
マルシメ
萬有製薬
三鷹市
三越労働組合
三菱電機労組
三菱電機ﾋﾞﾙﾃｸﾉｻｰﾋﾞｽ
(株)三原田組
宮下眼科医院
(株)宮地組
宮森 正明
明星学園
武蔵野女子大学
明学舎
メイユー
森山工業
八千代銀行
柳津町
山川工業
山田 森一
山田洋行(株)
山梨建設業協会
山梨県立市川高校
ヤマハ発動機
ヤマビガス
ユアテック
(株)ユカ
湯河原ｶﾝﾄﾘｰｸﾗﾌﾞ
豊商会
ユニマット
横浜エージェンシー
横浜女子高校
横浜高島屋労組
横浜丸魚
横山光輝
吉プロ
よつは乳業
立正佼成会
倫理研究所
龍神総宮社
レリアン
渡辺建設

物品寄付者ご芳名（五十音順・敬称略）

自 1991年4月 1日
至 1992年3月31日

相原 夏江
新井 猛二
荒木 國夫
安藤 公一
石原 圭依子
大内 三良
岡野 マスミ
尾崎 フサ
加藤 利村
川野 千三郎
金城 富美子
工藤 豊政
小平 喜清
酒井 久江
島倉 忠行
関口 雅子
高橋 エイ子
滝住 武繁
田代 岳
田中 康弘
徳重 千津子
中柴 治義
中野 道子
長棟 正枝
福井 哲也
藤野 佐和子
古沢 清成
牧田 紀子
政本 ゆたか
松下 信雄
森 重太郎
諸藤 フサ子
山内 潤子
山口 節子
山根 昭市
林 訑孝
Diane G.

黄綬褒章祝賀会での担当理事夫妻

寄せられたレコーダーをＮＡＷＢに届ける

東京ヘレン・ケラー協会
創立４０周年記念
オリジナルテレフォンカード
頒価２，０００円（２枚セット）

ヘレン・ケラー女史のポートレートと、ヒマラヤを背景に日本の盲人がトレッキングを楽しんでいる様子をデザインした、オリジナルテレフォンカード２枚組。とりわけ女史の自筆サイン入りの写真は貴重です。本テレフォンカードの純益は、すべてネパールの盲人援護に使われます。

寄付金に対する減免税措置

東京ヘレン・ケラー協会は、所得税法施行令第２１５条第４項および、法人税法施行令第７７条第４項にかかげる社会福祉法人でありますので、所得税法第７８条第２項第３号および、法人税法第３７条第３項の規定が適用され、当協会に対する寄付金は次の通り、寄付金控除または損金算入について税法上の特典が受けられます。

１．個人の方が寄付をする場合は、

寄付金控除額＝（寄付金額と年間所得の２５％のどちらか低い方）－１万円

２．法人が寄付する場合は、

一般寄付の場合の損金算入限度額の２倍まで、損金算入枠が拡大されます。

編集後記

ＣＢＲセンターに続き、今年は新点字出版所が稼働を始めました。穴蔵のようなところで、コツコツと作ってきた点字教科書が、やっと日の目を見るようになった思いがします。三年契約で実施してきたＣＢＲ事業も、ようやく成果らしいものを見せるようになりました。我々はこの新しい芽をさらに育てるため、協定を三年間延長する交渉を、現在ネパール政府と進めています。

本年は、当協会が海外盲人援護事業を開始して十年目に当たります。この節目に、担当理事はネパールでの国際貢献の実績により黄綬褒章を受賞し、当事務局は外務大臣より表彰されました。これも一重に皆様方のご支援、ご協力の賜物と、厚く御礼申し上げます。

ネパールも民主化以降急速に変貌しており、近代化の弊害も生まれています。我々の事業が本当に現地の人々に望まれているのか、今後も自戒しつつ事業を進めますので、なお一層のご指導、ご鞭撻の程お願い致します。

TOKYO HELEN KELLER ASSOCIATION
Established 1950

14-4, Ohkubo 3-Chome, Shinjuku-ku, Tokyo 169 Japan

TEL: 03-3200-1310　FAX: 03-3200-2582

発行：社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会
海外盲人援護事業事務局
住所：〒169 東京都新宿区大久保3-14-4
毎日新聞社早稲田別館内
TEL 03-3200-1310 FAX 03-3200-2582
郵便振替　東京5-91688
銀行口座　さくら銀行新宿支店(普)5101190